



あと1週間 体育大会

校長 小木曾敏樹

5月とは思えないほどの暑い日もありました。そんな中、早朝から全校生徒がグラウンドに出て、大縄跳びや競技の練習をしています。地域の方からは、「朝早くから元気な声が聞こえてくるから、気持ちがいいよ。」などとお誉めの言葉をかけていただきました。

放課後の練習は、チームパフォーマンス(応援)の練習と競技の練習です。全体は生徒会執行部が指示し、チームパフォーマンスは3年生のリーダーが、そして、競技は各学級のリーダーが大きな声を出しながら頑張っています。

朝と放課後の全校での練習が正式に始まったのは、今週からです。しかし、もうすでに4月の中旬から、朝や昼休みを使い、大縄跳びの自主練習は始まっていました。そう考えると、もう1ヶ月以上も取り組んでいることになります。そんな取り組みもあと1週間になりました。

1週間後、生徒たちがどんな姿を見せてくれるのか、私には見えるような気がします。9月開催ではなく、5月末の開催では盛り上がり欠けるという声を、生徒たちはきっと打ち消してくれるはずです。

大縄跳びでひっかかった仲間に対して、「誰だ?」「しっかりやれよ!」「お前のせいで…」などと厳しい言葉を投げかけるシーンを、これまで何回となく見てきました。担任の先生たちほどではありませんが、私も生徒たちが大縄跳びをしているのを見に行きます。小泉中学校では、まだ一度もそんな心ない言葉を聞いたことがありません。



体育大会の思い出

中学校1年の体育大会は最悪でした。

全校生徒は約800人。全校を白団と赤団の2組に分け、優勝を競いました。私は小学校の時から高校1年までずっと選手ルーとかベストルーとか代表ルーと呼ばれる最後の競技のルー選手に選ばれ走っていました。短距離は結構速かったのです。

私は赤団。各学年が4人ずつ走り、3学年計12人でバトンをつなぎます。赤団2チーム、白団2チーム、計4チームでトラックを走ります。1年生から始まりアンカーはもちろん3年生。アンカーを務める3年生のカッコよさにみんなが憧れていました。「頑張れよ」「抜いてこいよ」という先輩の励ましをプレッシャーに感じながら、最後の競技である選手ルーが始まりました。私は3番目の走者。バトンを受けた時、1位は白、2位は赤の私、3位は赤、4位は白でした。抜いて1位でバトンを渡したいと必死に走りました。第2コーナーを過ぎ直線にかかるところで、私は3位の赤の選手に後ろから足を引っ掛けられ、2人でそのままヘッドスライディング。

アンカーを待たずして、赤団の3位4位は確定してしまいました。顔、胸、腹、もも、ひざには、激しく擦り傷ができ、血が流れていました。「お前のせいで…」「あいつのせいで…」、そんな言葉を浴びせられる痛さで、傷の痛さはあまり感じていませんでした。何も言わなくても、誰かからの視線を感じると、「あいつのせいで…」と聞こえてしまうのです。「気にするな。お前のせいじゃない。」と笑顔で言ってくれる先輩の言葉が、かえってぐさりと胸に突き刺さったりしました。

体育大会が終わっても顔からひざまでの傷は残ったままで、私が赤団を負けにした者ですと言っているようなものでした。「もう絶対に走らない。」と心に決めた私ですが、2年生でも、3年生でもやはり最後の競技を